

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

2024.9.20発行

vol. **138**



2025年に
開学30周年を迎えます



大川キャンパス運動会

特集

「日本リハビリテーション医学会
60周年記念講演会」特別講演

ベトナム訪問回来学

夏のオープンキャンパス



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

CONTENTS

vol.138 September 2024

03 特集

高木理事長、「日本リハビリテーション医学会60周年記念講演会」特別講演に登壇

04

日越外交関係樹立50周年記念事業特別プログラム
ベトナム訪問団来学

05

NEWS

「第45回アジア医学生会議」本学で開催
大田原キャンパス 医学検査学科棟 新築工事地鎮祭

06

夏のオープンキャンパス
5キャンパスで開催！



08

キャンパスレポート

小田原保健医療学部理学療法学科の細谷彩香さん 能登半島地震被災経験を語る（小田原キャンパス）
大川キャンパスで医学検査学科 国際セミナー開催（大川キャンパス）
模擬店売り上げを難病医学研究財団へ寄付（大田原キャンパス）
リハビリテーションセミナーを開催（成田キャンパス）
医療マネジメント学科4年生が第50回日本診療情報管理学会にて発表（東京赤坂キャンパス）
医学検査学科4年生が学会発表（大川キャンパス）

10

各キャンパス運動会



11

トピックス

第28回あいおいニッセイ同和損害保険 奨学生認証式
医学部6年生、学長奨励賞を受賞
大田原高等学校、白河旭高等学校との高大連携協定を締結

12

施設インフォメーション

国際医療福祉大学成田病院／国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学三田病院／
国際医療福祉大学熱海病院／国際医療福祉大学市川病院／国際医療福祉大学塩谷病院／山王病院

14

医学部3期生 海外臨床実習

15

2024年度年間成績優秀賞決定

16

キャンパスプラス1 クラブ・サークル紹介

軽音楽部（大川キャンパス）

The 61st Annual Meeting of the Japanese Association of Rehabilitation Medicine

高木理事長、「日本リハビリテーション医学会 60周年記念講演会」特別講演に登壇

6月13日（木）～16日（日）の4日間にわたり、東京都渋谷区のセルリアンタワー東急ホテルをはじめとする4会場で行われた「第61回 日本リハビリテーション医学会学術集会」の初日、「公益社団法人日本リハビリテーション医学会60周年記念講演会」の特別講演に、高木邦格理事長が演者として登壇した。



特別講演で講義を行う高木理事長



記念講演会が行われたセルリアンタワー東急ホテルのボールルームD

特別講演の座長で第61回 日本リハビリテーション医学会学術集会会長の安保雅博東京慈恵会医科大学教授よりご紹介を受けた高木理事長は「日本のリハビリテーション医療・教育の歴史とこれからの展望」をテーマに約1時間にわたり講演を行った。

高木理事長は冒頭、国際医療福祉大学グループの歴史を振り返り、「20代のころ、岳父の脳卒中をきっかけに数か所のリハビリテーション病院を見学するなかで、高度なリハビリテーション医療を提供する病院・施設の充実や質の高い療法士養成の必要性を痛感しました」と語り、その後の人生でリハビリテーション医療に深く携わるきっかけとなった出会いがあったことを話した。

続いて、医師以外の医療福祉専門職の地位向上とアジア各国の医療福祉分野のリーダー養成をめざして開学した国際医療福祉大学が、これまでに国内外のリハビリテーション医療分野で貢献してきた取り組みについて紹介し、中国からは「中国リハビリテーション研究センター」の設立をはじめ、理学療法士、作業療法士の養成を目的

に学部・大学院でフルスカラーシップの留学生の受け入れを行うなど、長年の功績が評価され、2023年に中国・国際リハビリテーション100周年記念賞「世界で最もリハビリテーションの発展に貢献した100人」を受賞したことに触れた。

また、モンゴル、ミャンマー、ベトナムにおけるこれまでの国際貢献についても、スライドで写真を紹介しながら語った。

講演の後半では、リハビリテーション医療提供体制や医療教育体制の課題について、これまで30年間にわたり、教育・医療・福祉分野全体に携わってきた視点から指

摘し、今後の展望についても述べた。最後に、「これまでの約30年間はデフレが続く中で国の配給型の医療が持続した、我が国のリハビリテーション医療分野にとって奇跡とも言える時代だった。しかし今後インフレが続き、物価やエネルギーが高騰する状況下で、リハ医療分野がこのまま持続し続けられるのか、私は強い危機感を持っています。これから訪れる困難な時代、逆境を乗り越えていくには全く新たな発想が必要です。みなさんで知恵を出し合って、この逆境を打破していきましょう」と語ると、会場からは大きな拍手が沸き起こった。



高木理事長の特別講演は「第61回日本リハビリテーション医学会学術集会」初日に行われた



講演後、会場内を見学する高木理事長（右端）

日越外交関係樹立50周年記念事業特別プログラム ベトナム訪問団第2陣28人来学

本学は8月18日～31日の日程で、「日越外交関係樹立50周年記念事業」の第2陣として、ベトナムの医師や看護師、大学講師、学生ら28人を招待し、本学グループ施設の視察や講義などの特別プログラムを実施した。

この特別プログラムは、2023年9月にベトナム ホーチミン市で開催した「日越外交関係樹立50周年記念 国際医療協力シンポジウム」で高木邦格理事長が発表したもので、医師、看護師、リハビリテーション職、学生、行政関係者など医療に携わる方々を50人招待し、将来、日越の医療分野における架け橋となることを期待し計画したものである。今年3月17日～30日、すでに第1陣として22人が来学し、プログラムを終了している（本誌137号掲載）。



●国際医療福祉大学病院での視察



●修了証を手に笑顔の訪問団

栃木・東京での研修を行った特別プログラム前半

一行は到着翌日の19日～24日の日程で、国際医療福祉大学病院をはじめ、西那須野キッズハウス、栃の実荘、マロニエ苑など栃木地区の医療福祉施設、大田原キャンパスなどを訪問した。19日には、那須塩原市の渡辺美智太郎市長をはじめとする来賓の皆様を招いたウェルカムパーティを開催。



●懇親会で挨拶する高木理事長

新井田孝裕副学長は「今回も前回同様、多様な施設を見学していただけるよう手配いたしました。2週間後に『充実した期間だった』と思っていただけるように運営してまいります」と挨拶した。

24日には、東京赤坂キャンパスのカフェテリアにて高木邦格理事長、鈴木康裕学長、矢富裕大学院長らが、この日東京に移動した一行を出迎え、懇親会を開催した。冒頭、高木理事長は「第2陣となる今回は、若手の医療従事者の方々を中心にお越しいただきました。今日までの1週間では、栃木地区にある本学グループ施設を視察していただきました。来週からは成田地区に移動し、各専門分野の先生との懇談などのさまざまなプログラムを用意しています。残りの

1週間も研修を通じてさまざまなことを学びながら、日本を楽しんでいただければと思います」と挨拶した。来賓として急きょお越しいただいた加藤勝信元厚生労働大臣からは「医療というものは一国だけではなく、近隣諸国が同時に対応しなければなりません。新しい薬、新しい医療機器が入ったときには、近隣諸国で同じように使われていくことがそのエリアの人々の健康を広く守るために必要です。その実現には、国際治験の実施や薬の承認の仕組みづくりと一緒に進めるといった取り組みが不可欠です。日本でもベトナムでもアジアの他の国々でも同じように医療が提供できる日がくることを期待しています。皆様、ぜひこの貴重な機会に学びを深めてください」とご挨拶いただいた。

日本での2週間を振り返って

後半の日程では、成田キャンパス、国際医療福祉大学成田病院、国際医療福祉大学三田病院、山王病院の視察や講義などが行われ、帰国前日の30日には成田病院にて報告会とさよならパーティが行われた。

報告会では、国際医療協力センター長の山本尚子教授が冒頭、「今回のプログラムが将来の協力とパートナーシップの強固な基盤となることを願っています」とスピーチし、参加者が5つのグループごとに研修の成果や感想を述べた。チョーライ病院グループのグエン・チュン・ソン研修センター副センター長は「1つのエリアに病院、大学、リハビリテーションセンター、老人ホーム、幼稚園などがそろっている国際医療福祉大学の組織モデルが素晴らしいと思いました。今後ベトナムの医療施設もそうしたモデルをめざすことになるのではないのでしょうか」と発表した。ホーチミン市立11区総合病院の

チャン・チャン・スアン病院長は「日本は、围産期死亡率が極めて低く、平均寿命は非常に高いことが今回の講義でわかりました。充実した医療制度や保険制度が整う日本同様の医療制度をベトナムでも実現するよう努力していきます」と話した。

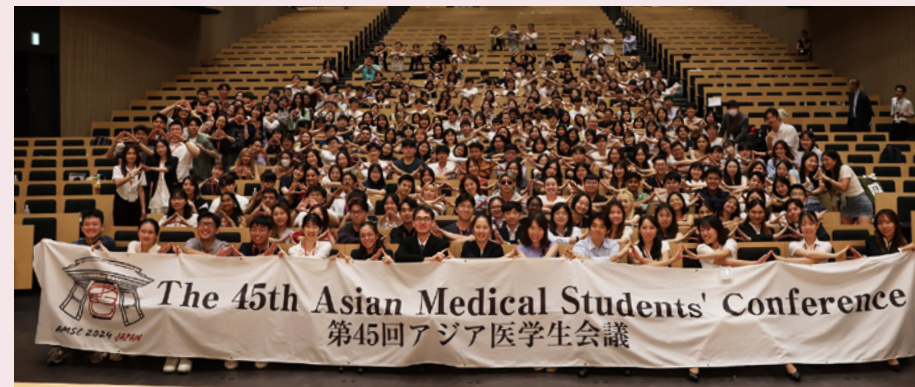
報告会後、成田病院の国際ホールで行われたさよならパーティには、本学からは矢富裕大学院長、坂元亨宇医学部長などが参加し、訪日団との別れを惜しんだ。来賓としてお招きした成田市の小泉一成市長は、「今後もベトナムと日本の医療分野の架け橋となれますこと、また、両国の医療・福祉の発展にご尽力を賜りますことを祈念申し上げます」と挨拶。三浦総一郎専務理事による乾杯の発声後、参加者は食事を楽しみながら和やかに歓談し、特別プログラム最後のひとときを過ごした。本学成田キャンパスの学生オーケストラ部による演奏も行われた。



●成田キャンパス学生オーケストラ部

最後に、角田巨医学部教授がベトナム語で「高木理事長は、ベトナムをはじめとするアジアの医療の発展を願うと同時に、日本とベトナムの医療従事者が協力し合って仲良くなってほしいと願っています。今後ぜひ日本の医療従事者と協力しあって仲良くしてください」と挨拶し、さよならパーティを締めくくった。今回の特別プログラムをすべて終えた訪日団は31日、無事帰国の途についた。

News 1 「第45回アジア医学生会議」本学で開催



●参加者全員で記念撮影（東京赤坂キャンパス）

7月21日～27日、「第45回アジア医学生会議」が、国際医療福祉大学成田キャンパス・東京赤坂キャンパス、国際医療福祉大学成田病院で開催された。「アジア医学生会議」は、アジア各国の医療系学生約400人が一堂に会する、アジア医学生最大のイベント。会議運営の責任者である2人の議長の1人を本学医学部卒業生（1期生）で国際医療福祉大学病院研修医（現在、国際医療福祉大学成田病院で研修中）のグエン・ヴァン・タイ氏が務めた。成田キャンパスで行われた開会式では、武見敬三厚生労働大臣よりビデオメッセージが寄せられ、成田市の小泉一成市長よりご挨拶が述べられた。テーマは「災害医療」とし、基調講演には

公益財団法人結核予防会の尾身茂理事長が登壇。対面のほか、オンラインでのグループディスカッションやワークショップなど、学術的な知識の共有や異文化交流を通じ、医療の道を志す同年代の学生が国境を越えて交流を深めた。

閉会式では、会期中に参加者の医療の知識や技術の向上を目的に開催されたアカデミックコンペティションの表彰式が行われ、特別顧問を務めた本学の鈴木康裕学長や、矢富裕大学院長が閉会の挨拶で締めくくった。その後、東京赤坂キャンパス2階のカフェテリアで行われたフェアウェルパーティでは、7日間のプログラムを終えた学生たちが再会を約束し別れを惜しんだ。



●本学医学部卒業生のグエン・ヴァン・タイ議長



●東京赤坂キャンパスで行われた閉会式



●閉会式後に行われたフェアウェルパーティ

News 2 大田原キャンパス

大田原キャンパスで8月9日、医学検査学科棟新築工事の地鎮祭が行われ、関係者約40人が工事の安全を祈願した。新校舎は鉄骨造り4階建て、延べ床面積は約5,900㎡で、4つの講義室、6つのゼミ室、実習室、研究室などを備える。完成予定は2025年8月で、がんゲノム医療にも活用される装置など最新研究機器を設置する。

大田原キャンパスでは9番目の学科となる医学検査学科の開設は、開学30周年事業の一環として行われ、2025年4月開設をめざしている。臨床検査技師の養成を目的とする学科としては、栃木県内や東北地方の4年制私立大学で初。

地鎮祭には本学関係者、工事関係者のほか、栃木県保健福祉部の岩佐景一郎部長、大田原市の相馬憲一市長らが出席。地

医学検査学科棟 新築工事地鎮祭

元新聞社やテレビ局等のメディアによる取材も行われた。神事で本学の高木邦格理事長、鈴木康裕学長が鍬を入れ、その後関係者が玉串を捧げた。

施主を代表して挨拶に立った高木理事長は、臨床検査技師の不足や偏在が指摘される昨年、コロナ禍の混乱期において「PCR検査を行うなど、頼もしい存在だった臨床

検査技師だが、栃木県では臨床検査技師の数が不足していて大変だった」と振り返り、「栃木県内には臨床検査技師を養成する4年制大学がこれまでなかったので、医学検査学科の開設によって栃木県や市に恩返しすると同時に、さすが国際医療福祉大学だと言われるような学科にしたい」と決意を述べた。



夏のオープンキャンパス 5キャンパスで開催！ *Summer Open Campus*

今年も全国5キャンパスで夏のオープンキャンパスを開催した。各キャンパスともに、多くの高校生や保護者の方々が来場し、楽しみながら医療福祉分野の学びと仕事の魅力を体感した。オープンキャンパスを通じ、来場者と学生の交流が広がり、キャンパスを身近に感じてもらうことができた。

Otawara



大田原キャンパス

7月28日、31日、8月10日、11日に夏のオープンキャンパスを開催した。あわせて約3400人が来場し、どのブースも賑わいを見せた。夏は学科体験だけでなく、受験直前対策として、小論文や面接、英語の対策講座や、志願理由を考えるワークショップなどを実施した。

また、本学の特長である「チーム医療・チームケア」を体感できる特別企画も開催。参加者は各職種が1つの症例に対して「どう関わっているか」を、クイズを通して理解を深めた。参加者からは「患者様ひとりに対して、いろいろな職種が関わっていることや、他職種と協力する重要性を知ることができ、興味深かった」という感想が寄せられた。
(入試広報室 斎藤萌々花)

Narita



成田キャンパス

8月4日に成田看護学部、成田保健医療学部、成田薬学部、介護福祉特別専攻科のオープンキャンパスを開催、1800人を超える方にご来場いただいた。大学紹介や養成する医療福祉職の紹介、入試説明に加え、先輩トークの「関連職種連携教育」では在学中から学ぶチーム医療・チーム

ケア、他学科の学生と共同することで得られる学びが紹介された。学科フロアでは学科紹介はもちろんのこと、さまざまな体験企画でにぎわった。
8月11日には医学部オープンキャンパスを開催。大学紹介、本学の英語教育のほか、学生と話そうコーナー、学生の案内によるSCOPE見学などを実施。本学医学部の教育の特長、充実した施設を体感していただく機会となった。
(広報 城貴弘)

Tokyo Akasaka



東京赤坂キャンパス

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部を対象に6月9日、7月14日、8月4日、25日にオープンキャンパスを開催した。多くの参加者で賑わい、四国や九州など遠方からの来場もあった。

心理、医療マネジメント各学科の参加型体験授業や無料ランチ、個別相談やキャンパス見学ツアー等に加えて今年からは保護者対象説明会を実施するなど目的別に多様な企画が組まれた。来場者からは「入学後の学びがイメージできた」、「在学生と話すことで不安が解消された」といった感想があった。
(事務部 小野剛)

Odawara



小田原キャンパス

小田原保健医療学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科）では8月4日、11日、18日にオープンキャンパスを開催した。開場前から列をつくり待っている様子が見られ、多くの高校生たちが参加した。
「学科紹介」では、実習室をオンラインで生中継し、臨場感の

ある説明も行われた。「体験入学」も行われ、看護学科では新生児を用いた赤ちゃんのお世話体験、理学療法学科では筋力を調べる測定器の体験、作業療法学科ではVR機器を用いた3D映像で障害者の視点を理解する体験などを行った。特別イベントとして、「附属病院を知ろう」「総合型選抜対策講座」「在学生が語る小田原キャンパスの魅力」など「小田原で学ぶ」シリーズを開催し、好評を得た。
(学務課 志村佳美)

Okawa



大川キャンパス

オープンキャンパスでは伝えきれない、各学科での学びのおもしろさをより実践的に体験してもらおうと、高校3年生を対象にした「医学検査プレミアムカレッジ（以下PC）」を7月27日、「理学療法・作業療法PC」を7月28日、高校1・2年生を対象とした「薬学PC」を8月10日に開催した。定員は30人（PT・OTは20人）。

医学検査PCでは、「PCR検査でウイルス遺伝子を検出しよう！」など3つの検査実習コースを用意。理学療法・作業療法PCでは、グループ別に分かれた参加者が、模擬症例による評価・治療体験を通して理学療法士・作業療法士の「思考過程」とチーム医療の重要性を学んだ。薬学PCでは、「蛍光でみる細胞の機能と薬の作用」など研究活動の楽しさに触れる3つの実験コースを用意して、本学を訪れるのはこれが初めてという参加者たちにも、1日じっくり、薬学の魅力と福岡薬学部の整った教育環境に触れてもらった。
(広報 帆足リエ)

小田原キャンパス

小田原保健医療学部理学療法学科の細谷彩香さん 能登半島地震被災経験を語る

鈴木学長も活動の評価

6月1日、横浜市内みなとみらいで開催された能登半島地震被災地支援イベント「高校生能登応援商店街」で、小田原保健医療学部理学療法学科1年の細谷彩香さんが自身の被災経験について語った。このイベントには神奈川県内の10の高校、被災地である輪島高校、飯田高校さらに、過去の震災復興地の石巻商業高校、神戸商業高校、熊本商業高校の合計15校が参加して行われた。イベント当日は、テレビ朝日、tvk、横浜経済新聞（ネット）などのメディアも取材に訪れた。

鈴木康裕学長は、この日の発表について報告を受け、細谷さんと面談。「身近な方々がお亡くなりになるなど辛い経験をされたなかで、ご自身の被災経験を語ることは辛いことだったと思います。それでも被災地支援のため、また多くの方々に震災時の状況を伝えたいという想いから積極的にイベントに参加されたことは大変素晴らしいと思います」と細谷さんの活動を評価した。

細谷さんは震災当日、輪島市内の祖母の家でお正月を過ごしていた。祖母の家から車で10分程度の自宅に帰ろうとしてい

たところに最初の地震があり、続いて震度7の地震があった。「体感としてはジェットコースターに立って乗っているような感覚で、横揺れに加えて床から突き上げられるような縦揺れもありました。食器が飛んできたり、家の一部が壊れたりしましたが、幸いにも家族への人的被害はありませんでした。友人の家族や先生の家族など身近な人々が倒壊した建物の下敷きになったり、火災に巻き込まれたりして亡くなっており、今でも思い出すと胸が痛みます」と震災時を振り返った。

大動脈解離で金沢市内に入院している母が理学療法士にリハビリテーションを担当してもらったことがきっかけで理学療法士をめざした細谷さん。「震災時、既に国際医療福祉大学に進学することは決まっていたのですが、国際医療福祉大学グループ病院のDMATの方々が被災地支援に来てくれ、雪が降る寒いなかで支援をしていただきました。自分も将来理学療法士として被災地支援に参加したいと考えています。それに加えて将来は、母や母のような方々を支えられる理学療法士になるため、高次脳機能障害などの脳に関する理学療法を行う理学療法士をめざしたいです」と語った。（学務課 大山聡）



●鈴木学長と面談する細谷さん



●イベントで被災経験を語る細谷さん



●面談後に鈴木学長（右）と記念撮影

大川キャンパス

大川キャンパスで医学検査学科国際セミナー開催

6月26日に大川キャンパス医学検査学科国際セミナー「疾患における細胞外小胞(EV)・マイクロRNA研究」を開催した。

タイ国マヒドン大学熱帯医学部よりSupat Chamnanchanunt准教授、本学成田キャンパス医学検査学科より竹内 啓晃教授を招いて、Supat先生には「High sensitivity CRP as a prognostic biomarker in COVID-19」、竹内先生には「Helicobacter pylori and extra-gastric disorders」と題し

ご講演をいただいた。

医学検査学科のセミナーではあるが、高木病院の診療科の先生方、研修医の先生、検査技術部スタッフ、大学院生、計40名ほどの参加者となり、講演後には活発な学術的意見交換が行われ大変有意義な時間となった。

国際医療福祉大学では、海外研修が必須科目としてカリキュラムされるなど国際化が進められており、学科レベルの学術的国際交流として今後もこのような活動を継続したい。

なお、当企画は高木病院臨床検査部長 梅村 創教授のご尽力により開催に至った。この場を借りてご支援に心より感謝申し上げます。（福岡保健医療学部 医学検査学科長 佐藤 謙一）



●Supat准教授の講演



●セミナー全景

大田原キャンパス

模擬店の売り上げを 難病医学研究財団へ寄付

大田原キャンパスの学生約20人が所属している指定難病研究会は、2022年度に設立されたサークルである。授業で学んだことをさらに実りあるものにすることをコンセプトとし、難病に関する理解を深めるさまざまな勉強会や活動を行っている。

昨年度の風花祭では綿あめ店を出店し、その売り上げを公益財団法人難病医学研究財団に寄付した。コロナ禍の規制緩和に伴い、学園祭での飲食店の出店が解禁され、ようやくサークル設立当初からの目標を実現させることができた。財団からは丁寧な礼状をいただいた。メンバーで協力し学内での学びを超えて活動できたことは、私たち学生にとって貴重な経験となった。

この経験を生かし、今後も難病に関する社会的な活動を伸展させていきたい。

（指定難病研究会 大田原キャンパス薬学部薬学科3年 橋本 蒔子）



●指定難病研究会のメンバー

成田キャンパス

リハビリテーションセミナーを 開催

7月13日、高校生や受験生を対象に「リハビリテーションセミナー」が大田原・成田・小田原・大川の4キャンパスの作業療法学科の合同イベントとして開催された。

第1部はオンラインで特別講演「車椅子生活になってもどこへでも自由に行ける社会へ!」をテーマに車椅子で生活されている内田氏と作業療法士の発鹿氏（有限会社足柄リハビリテーションサービス）の対談を実施した。第2部はキャンパスでの体験プログラムとして、成田キャンパスでは「車椅子体験」を行った。初めに、車椅子の乗り方と操作の説明を受け、実際に大学校舎内の廊下やスロープ、エレベーターの乗降、大学から駅までの歩道での移動を体験した。歩いていれば気が付かない程の緩やかな傾斜や段差が車椅子ではスピードを感じる、乗り越えるのにも勢いが必要となることを体感した。（広報 城貴弘）



●キャンパス内での車椅子体験



●大学から駅までの歩道での体験

東京赤坂キャンパス

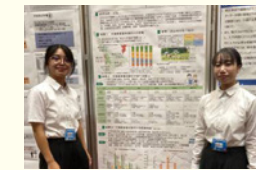
医療マネジメント学科4年生が 第50回日本診療情報管理学会 にて発表

8月22日～23日、第50回日本診療情報管理学会の学生ポスタープログラムにて、医療マネジメント学科4年生7名が2つの学会発表を行った。本プログラムは全国の診療情報管理士認定試験受験指定校の学生が集結する場であり、本学科の学生としてはこれが初の発表となった。

ひとつは「診療情報管理士資格 国家資格になぜならないのか」という演題で、診療情報管理士資格が国家資格化されない理由について、業務内容や海外比較等の調査を織り交ぜつつ考察を深め、一定の解決策を提示する鋭い視点で研究した。

もうひとつの研究テーマは「千葉県東葛北部における子育て支援と小児医療体制の分析」。全国的な人口減少がある中、急激な年少人口の増加のある千葉県東葛北部医療圏を中心に、子育て支援と小児医療体制の並行した調査・比較を通じ、現状と課題を明らかにした。

学生は緊張しながらも身振り手振りを加えた明快なプレゼンテーションで関心を集め、活発な質疑応答が行われた。（医療マネジメント学科 石田 円）



●西川路満莉香さんと棚橋りのさん



●武藤百叶さんと中根桃子さん

大川キャンパス

医学検査学科4年生が 学会発表

6月30日に福岡県飯塚市で開催された第33回福岡県医学検査学会にて、医学検査学科4年生 里川綾那さん・越智レイナさんが「ランダムイズ2回測定法を用いた機器間差測定システムの構築」と題した研究報告を行った。当研究は、上野民生講師の指導のもと2023年度卒業研究内容を引き継ぎ発展させたもの。登壇時には緊張していた2人も、発表が始まるとそうした様子はすっかり消え、最後まで立派に報告した。聴衆・座長からの質問に対して的確に回答する姿は大変頼もしく、素晴らしい学会発表となった。

（福岡保健医療学部 医学検査学科長 佐藤 謙一）



●左から越智さん、上野講師、里川さん



大田原キャンパス

晴天の中、第29回運動会を開催した。借り物競争や綱引き、大縄跳び、リレー、応援合戦の5種目が行われ、熱戦が繰り上げられた。恒例の学科対抗応援合戦では、工夫溢れる演技で会場がおおいに盛り上がった。総合優勝は理学療法学科が、応援合戦は看護学科が優勝を勝ち取り幕が下りた。
(入試広報室 齋藤萌々花)



5月18日(土)

5月18日(土)



成田キャンパス

重兵衛スポーツフィールド中台体育館を会場に運動会を実施した。学科混成20チームでの対抗で、バスケットボール、借り物競争、ドッジボール、リレーの4種目を競技した。学科の垣根を越え、協力して力を出し切り、一致団結して熱く争った。リレーでは急ぎよ、教員チームも参加し会場が大いに盛り上がった。
(広報 城貴弘)

東京赤坂キャンパス

第2回体育祭が開催された。参加の中心は1年生、会場は体育館、種目はモルックとドッジボールという小規模な設定ながら、当日結成チームとは思えぬ団結力でトーナメント戦は次第に熱を帯びた。昼食を挟み、ドッジボール決勝戦ではアクロバティックな技も飛び出して大きな歓声に包まれた。
(事務部 小野桂子)



5月18日(土)

6月15日(土)



小田原キャンパス

城内校舎体育館にて第19回運動会が開催された。学年、学科も異なる約190名もの学生が、チームごとに、おそろいのTシャツやビブスをまとい、大いに盛り上がった。はじめこそ、ぎこちない雰囲気であったものの、だんだんと白熱して一致団結していく様子は、まさに、チーム医療につながるよい経験、運動会となった。
(学務課 石井園美)

大川キャンパス

運動会は、グラウンドと大川南体育館の2会場で行われた。参加したのは、看護・理学療法・作業療法・医学検査・薬学科の1・2年生450人。ドッジボール、バレーボール、卓球、モルックの競技で、総勢78チームが競い合い、熱く楽しい1日となった。
(広報 帆足リエ)



5月18日(土)

第28回あいおいニッセイ同和損害保険 奨学生認証式

第28回「あいおいニッセイ同和損害保険奨学生認証式」が6月25日、あいおいニッセイ同和損害保険の本社（東京都渋谷区）で行われた。昨年に続き今年度も奨学生7人全員が対面式での参加となり、同社の新納啓介社長から認証状を手渡された。

この奨学金制度は、あいおいニッセイ同和損害保険の前身である同和火災海上保険が、医療福祉分野を支える有為な専門職の育成をめざす本学の趣旨に賛同し、創立100周年記念事業の一環として1996年に創設された。1997年度から奨学金の授与が始まり、奨学生の総数は2022年までに246人を数え、奨学金の総額は5億1,000万円に上る。

認証式の締めくくりに、新納社長から「奨学生として認証された皆さん、おめでとうございます。今日は皆さん1人ひとりから直接心のこもった力強い決意表明をお聞かせいただき、本当にうれしく思っております。皆さんのめざす医療福祉分野は社会の安定、発展にかかせない分野です。これは、人々の生活を支え、安全安心を守る我々損害保険会社とも相通ずるものがあると思います。国際



●参加者全員で記念写真

医療福祉大学で学びを得て、医療福祉分野で実際に活躍できるようになるまでは決して簡単な道のりではないとは思いますが、その先の未来には多くの人々の生活を支えるプロフェッショナルとしての喜びや充足感が必ず皆さんを待っています。社会を支える同じ仲間として最大限のエールを送らせていただきますので、ともに挑戦していきましょう」と激励の言葉が贈られた。

鈴木康裕学長は、あいおいニッセイ同和損害保険の長年にわたる支援に感謝の意を表した上で「1995年開学の本学は、来年2025年に30周年を迎えます。建学の精神である『共に生きる社会の実現』をめざし、これからも多職種連携を修得し、真の国際性を身に付けた医療人を養成してまいります。御社のご恩に報いながら、次の30年も歩んでまいりたいと思います」と述べた。

(広報部 山崎香里)

第27回あいおいニッセイ同和損害保険奨学生

大田原キャンパス

小林 亜梨咲さん(薬学部薬学科2年)

山梨 百恵さん(保健医療学部理学療法学科2年)

成田キャンパス

川上 恵未さん(成田保健医療学部放射線・情報科学科2年)

ユツオ ツェジン ワンチュクさん(医学部医学科1年)

東京赤坂キャンパス

川邊 純夏さん(赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科2年)

小田原キャンパス

曾我 佳苗さん(小田原保健医療学部理学療法学科2年)

大川キャンパス

永渕 世規さん(福岡保健医療学部看護学科2年)

医学部6年生、学長奨励賞を受賞

6月1日、東京・秋葉原コンベンションホールにて、第11回日本アレルギー学会関東地方会が開催され、医学部6年生の山下碧望さんが「ヒノキ花粉症と舌下免疫療法に関するアンケート調査(第3報)」を発表し、優秀発表賞(Excellent Presentation Award)を受賞。この研究成果は本学学長奨励賞として表彰された。

山下さんは医学部の学生研究課外活動として、本学医学部耳鼻咽喉科学の岡野光博教授が中心となって全国の多くの施設と共同で実施している「舌下免疫療法とヒノキ花粉症に関する実態調査」の解析を行った。2023年に集積された1,200例を超えるデータを自身で入力・解析し、スギ花粉を用いた舌下免疫療法を受けた患者の約40%ではヒノキ花粉飛散期に舌下免疫療法の効果が減弱するなどの知見を得ている。

(成田キャンパス 広報 城貴弘)



●鈴木学長より奨励賞を受けた山下さん

大田原高等学校、白河旭高等学校との高大連携協定を締結

大田原キャンパスは5月30日に福島県立白河旭高等学校と、6月12日に栃木県立大田原高等学校と、それぞれ高大連携協定を締結。大田原キャンパスで協定締結式を行った。本キャンパスが高大連携協定を結ぶのは、両校を加えて11校となる。

大田原キャンパスと同じ大田原市内にある大田原高校とは、開学当初からさまざまな連携を行ってきた。今回の連携協定締結を機に交流をさらに充実させていくほか、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取り組みの一環で、本キャンパス教員による生徒へのアドバイスを充実させるなど、相互連携をさらに深めていく。

また、白河旭高校とも、教員の出張講義、入試ガイダンスなどこ

れまでの交流に加え、同校が取り組む探究学習へのサポートなどを展開していく。
(入試広報室 川上二郎)



●白河旭高等学校 高橋文彦校長(左)



●大田原高等学校 君島芳一校長(右)

国際医療福祉大学成田病院

脳神経内科の市民公開講座を開催

8月24日、認知症の市民公開講座を開催した。脳神経内科部長・村井弘之教授（代表）が「よくわかる！認知症と上手に向きあう方法」というテーマで、認知症をきたす疾患・原因の解説や、認知症に至る経緯、検査や治療薬、患者様に対する向き合い方などについて講演を行い、参加者たちは配布資料へ熱心にメモを取りながら聴き入っていた。終了後には質問が相次ぎ、アンケートでも「自分や家族が年を重ねるうえで必ず考えなければいけない問題なので、今後の対策として参考になった」「認知症になった場合の対応の仕方、考え方や予防の方法、レカネマップなどについて知ることができたのでとてもよい機会だった」「認知症家族の会のメンバーにも伝えたい」などのお声をいただいた。

次回は10月26日13時30分から、整形外科・中山政憲医師と多職種による「真剣に考えたい骨のこと～多職種で取り組む骨粗しょう症」を開催予定。



●脳神経内科部長・村井弘之教授による市民公開講座

国際医療福祉大学病院

元培医事科技大学看護学生研修を受け入れ

6月28日、元培医事科技大学(台湾)から4人の看護学生が来日し、研修の一環として当院に来られた。

最初に病院概要を説明、その後、ばーすはうす、予防医学センター、那須シミュレーション医学センター、リハビリ室、図書室などを見学した。中でも、那須シミュレーション医学センターでは、腹腔鏡シミュレータや超音波診断装置のリアルな画像に全員が釘付けとなり、また人型のシミュレータを使った看護ケア体験では驚きの声をあげるなど、予定時間を超えての充実した滞在となった。

さらに同日、那須塩原市による中学生の社会体験活動「マイ・チャレンジ」に参加していた地元中学生とも交流。とても和やかな雰囲気で行った。

今回の受け入れは、専門性と国際性を兼ね備える当院にとって大変有意義な機会となった。今後も国内外を問わず、こうした研修の受け入れを継続していきたい。（総務課 中野雄斗）



●腹腔鏡シミュレータを体験する様子



●中学生（左から5人まで）と交流する様子

リトアニア健康科学大学から医学生の実習を受け入れ

本学の提携校であるリトアニア健康科学大学の医学生の実習受け入れが始まった。海外からの実習生受け入れは、当院が開院した2年後（2022年）のコロナ禍に初めて開始したが、その第1号がこのリトアニア健康科学大学で、今年で3回目の受け入れとなる。

リトアニア健康科学大学はバルト3国の1つであるリトアニア共和国・第2の都市カウナスにある国立大学で、本学とは2019年に学術交流協定を締結している。学生たちは2チームに分かれて来日。第1グループは8月26日～9月20日、第2グループは9月24日～10月18日、それぞれ9人と11人の学生が各診療科を1週間ずつ回り、実習を行う。（広報室）



●小児科の実習

●消化器外科の実習



●吉野一郎病院長と第1グループの学生たち

国際医療福祉大学三田病院

秋田雅史心臓外科部長、中嶋英治呼吸器外科部長が着任し、心肺外科分野がさらに充実

当院では、6月に呼吸器センターに中嶋英治呼吸器外科部長（国際医療福祉大学 病院教授）が、7月には心臓血管センターに秋田雅史心臓外科部長（国際医療福祉大学 病院教授）が着任し、心肺外科分野は充実した布陣と体制が備わった。

秋田心臓外科部長は、防衛医科大学校を卒業し、前職では新松戸中央総合病院にて心臓血管センター長・心臓血管外科部長を務めた。これまで2つの病院で心臓血管外科を立ち上げ、年間で開心術200件以上、総手術数400件以上の実績を誇る。

中嶋呼吸器外科部長は、東京医科大学を卒業後、東京医科大学茨城医療センターほか、米国University of Colorado Health Science Centerなど国内外の病院で研鑽を積んできた。外科手術・化学療法・放射線療法を組み合わせた肺がんの集学的治療や縦隔腫瘍、気胸などを専門としている。

9月21日には、「喫煙による呼吸器疾患のリスクと最新の心臓外科手術のはなし」と題し、両医師の健康セミナーを開催する。（総務課 山本悦子）



●秋田雅史
心臓外科部長



●中嶋英治
呼吸器外科部長

国際医療福祉大学熱海病院

「第8回 医療連携協議会」を開催

7月23日、「第8回 医療連携協議会」を開催した。今回の協議会は当院耳鼻咽喉科の原田竜彦医局長が座長を務め、最初に山田佳彦病院長の挨拶で開会、続いて熱海市医師会の渡辺英二会長からご挨拶をいただいた。

講演は、まず整形外科部長の牧田浩行上席副院長が「人工関節を用いた手術治療」と題して、今年度から当院で行っている手術治療や症例について詳述した。次に、循環器内科部長の清岡崇彦教授と循環器内科副部長の佐藤貴雄准教授が「CMD外来・和温療法・24時間オンコール対応」などをテーマに、循環器内科の治療や救急体制について説明した。

懇親会では近隣医療機関の方々から一言ずついただき、医師紹介を行った。顔を合わせる機会が少い方々とも意見交換等を行い、親睦を深めることができた。

今後も定期的に医療連携協議会を開催し、地域の医療機関との連携を深めていきたい。（地域医療連携室 柏木麻衣）



●講演を行う牧田上席副院長

国際医療福祉大学塩谷病院

2024年度「第1回 市民公開講座」を開催

7月20日、当院大会議室にて今年度の「第1回市民公開講座」を開催。小黒恵司副院長を講師とし、「知っておきたい高齢者のてんかんの知識～認知症とまちがえやすい!?～」と題して講演を行った。

本講演では、まず「てんかん発作とはどういうものか」の説明が始まり、続いて「高齢者てんかんと認知症のちがい」や「高齢者てんかんの抗てんかん薬の有効性」について詳しく解説した。また、障害者自立支援医療制度や精神障害者保健福祉手帳、障害基礎年金（精神）などの公的な支援についてもわかりやすく述べた。

受講者たちからは、「今まで認知症だと思っていた症状が、高齢者てんかんである可能性があることを知った」「抗てんかん薬で発作の改善が見込まれると知って、非常に勉強になった」など、さまざまな感想が寄せられた。

今後も地域の皆様の関心があるテーマで、市民公開講座に取り組んでいきたい。（総務・人事課 後藤文栄）



●市民公開講座に参加した受講者たち

国際医療福祉大学市川病院

関連職種連携実習を実施

7月29日から5日間の日程で、成田キャンパスの学生による関連職種連携実習が行われた。本学独自カリキュラムである「関連職種連携教育」の実習施設の1つとして、当院では毎年成田キャンパスの学生を受け入れており、今年で5回目となる。

医学科、看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科、放射線・情報科学科の各学科から合計16人が参加し、2つのグループに分かれ、指定された症例についての治療方針をグループで議論してまとめるという、チーム医療プロセスを体験した。

中間・最終カンファレンスでの発表では、当院の医師、看護師、医療スタッフから各職種の多様な視点からのアドバイスを受け、多くの「気づき」を得ることができた。

今回は、症例患者様の手術が実習期間と重なったため、手術を見学する機会もあった。短期間ではあったが、参加した学生にとって貴重で充実した経験となった。（総務人事課 高田聡）



●2つのグループに分かれての実習の様子

山王病院

リプロダクション・婦人科内視鏡治療センターを全面改装

リプロダクション・婦人科内視鏡治療センターは、1996年に開設された生殖医療と内視鏡手術に特化した専門施設で、患者様に寄り添いながら最新の医療技術を提供している。今回の改装では壁紙やカーペット等の張り替えにより、ページュを基調とした落ち着いた雰囲気演出されている。

待合室のインテリアにはこだわりがあり、やわらかい照明や心地よいソファを配置し、患者様がリラックスして待ち時間を過ごせるように配慮している。また、診察室や採卵室に加え、採精室や採卵後の休憩室も一新され、患者様がより快適に過ごせるように工夫した。さらに、8月にはAIによる評価機能を搭載した新型の培養器（タイムラプスインキュベーター）も導入している。

センター長の久須美真紀医師は、「安心して治療を受けられる環境を整え、信頼できる医療技術を提供することに努めています」と語っている。（総務課 青島千恵）



●リプロダクション・婦人科内視鏡治療センター待合室

過去最多の133人が参加

医学部3期生の海外臨床実習は5年次から6年次となる3月から6月にかけて、各学生原則4週間、アジア、アフリカ、欧米の26か国・地域の大学医学部、医療機関で行われた。

参加したのは3期生のほぼ全員、過去最多となる133人。海外臨床実習の必修は本学医学部の特長の1つ。各学生とも国内では得られない貴重な体験を積んだ。

以下は、ラオスの国立健康科学大学で研修を行った森本一好さんと、ロンドン大学クイーン・メアリー（英国）とヘルシンキ大学（フィンランド）の2つの大学で研修を行った嶋崎朱音さんの報告。

森本 一好さん 〈国立健康科学大学（ラオス）〉

熱帯特有の疾患を学ぶ

東南アジアにて熱帯医学を学ぶため協定校の一つであるラオスを研修先として選択した。ラオスは仏教徒の国であり人々は皆温厚であった。町中には至る所に仏像や歴史的な寺院がありとても美しい国であった。

実習ではデング熱や蛇咬傷、類鼻疽など熱帯特有の疾患について学んだ。先進国ほど医療機器は充実していないが、医療の基礎に基づき正確で迅速な診断を行っており大変感銘を受けた。

生活面では食生活に最も注意を払ったが、特に大きな問題はなかった。自らの視野を広げる良い実習であった。



●大学玄関前の森本さん

嶋崎 朱音さん 〈ロンドン大学クイーン・メアリー（英国）、ヘルシンキ大学（フィンランド）〉

医学以外の気づきも

滞在経験がない2か国での一人暮らしと病院実習に不安を抱いていたが、実際は不安を忘れてしまうほど毎日新しい学びを得ることができた。異なる人種や背景を持つ人々との交流や、各国の医療体制や実臨床の見聞にとどまらず、英国の麻酔科では気管挿管などの麻酔導入、フィンランドの心臓血管外科では冠動脈バイパス用の大伏在静脈の採取など、さまざまな手技をやらせていただいた。

計8週間の実習を通して、医学的知識のインプットに加え、医学以外の気づきも沢山あり、大変充実した時間を過ごすことができた。



●ヘルシンキの街で嶋崎さん

3期生海外実習の総括

国際的視野育成に大きな財産

3期生はほぼ全員、海外の現場で臨床実習に参加することができた。海外臨床実習を通じて、多様な医療システムや文化の違い、英語での意思疎通の重要性などを当事者として実際に体験し、国内の臨床実習のみでは得られない貴重な体験を積むことができた。海外臨床実習により学生の視野が広が

岡本 秀彦 医学科長
医学教育統括センター長

り、言語や文化の壁を越えてコミュニケーション能力を磨く貴重な機会となった。この経験は、今後学生たちが優れた医療人となるために必要な医療現場での対応力や協調性、国際的な視野といったものを身につけるための大きな財産となる。

2024年度 年間成績優秀賞決定

2024年度年間成績優秀賞受賞者が下記の通り決定し、各キャンパスで表彰式が行われた。この賞は、各学科2年生以上を対象とし、学業成績などが優れた学生への顕彰を目的としている。受賞者には奨学金が授与される。今年度は5キャンパス84人が受賞した。

大田原キャンパス			
保健医療学部			
看護学科	2年	佐藤	みゆり
	3年	梁取	こころ
	4年	佐藤	優芽花
理学療法学科	2年	谷口	紗雪
	3年	菊地	陽奈子
	4年	小澤	力斗
作業療法学科	2年	森岡	実咲
	3年	須田	有咲
	4年	奥原	健介
言語聴覚学科	2年	大谷	夏穂
	3年	新井	理香
	4年	阿部	菜月
視機能療学科	2年	神戸	寛人
	3年	鈴木	里菜
	4年	吉田	彩菜
放射線・情報科学科	2年	大谷	真之輔
	3年	秋元	凌輔
	4年	黒田	綾佳

医療福祉学部			
医療福祉・マネジメント学科	2年	上野	実乃里
	3年	坂寄	夏菜
	4年	手塚	美唯
薬学部			
薬学科	2年	小林	亜梨咲
	3年	星野	優里
	4年	新垣	花奈
	5年	清水	理沙
	6年	狩野	颯斗



●大田原年間成績優秀賞表彰式

成田キャンパス			
成田看護学部			
看護学科	2年	萬代	理子
	3年	澤崎	咲弥
	4年	小堀	真央
成田保健医療学部			
理学療法学科	2年	上里	彩心
	3年	竹能	世那

作業療法学科	4年	岩瀬	拓真
	2年	小笹	明莉
	3年	安井	芽依
言語聴覚学科	4年	柿澤	志保
	2年	木村	真菜
	3年	藤田	佳歩
医学検査学科	4年	窪谷	清音
	2年	小田	汐莉
	3年	児山	愛依
放射線・情報科学科	4年	有坂	琉生
	2年	川上	恵未
	3年	大西	渉
	4年	田口	奈津子

医学部			
医学科	2年	HUA PHAM NHUT HAO	
	2年	平田	竜都
	2年	NGUYEN TIEN HUNG	
	3年	田村	晃子
	3年	KHIN NYEIN CHAN KHIN	
	3年	SU SU SOE SAN	
	4年	山口	穂
	4年	倉茂	すず
	4年	TRUONG BAO NGOC	



●成田年間成績優秀賞表彰式

東京赤坂キャンパス			
赤坂心理・医療福祉マネジメント学部			
心理学科	2年	新村	優太
	3年	川井	若菜
	4年	荒山	美月
医療マネジメント学科	2年	田部田	香織
	3年	萩原	結香
	4年	井上	このみ



●東京赤坂年間成績優秀賞表彰式

小田原キャンパス			
小田原保健医療学部			
看護学科	2年	松平	心愛
	3年	鈴木	美怜
	4年	佐藤	冬聖
理学療法学科	2年	井上	温
	3年	山仲	智子
	4年	高山	花桜
作業療法学科	2年	岩崎	真波
	3年	田島	小想
	4年	市川	玲菜



●小田原年間成績優秀賞表彰式

大川キャンパス			
福岡保健医療学部			
看護学科	2年	春島	希歩
	2年	山崎	ほのか
	3年	黒木	凜太郎
理学療法学科	4年	鬼丸	万実
	2年	秋山	幸穂
	3年	田中	周
作業療法学科	4年	赤司	望愛
	3年	鳥谷	咲希
	4年	末次	凧沙
言語聴覚学科	2年	川野	光咲
	3年	土井富	優佳
	4年	富高	沙凧

福岡薬学部			
薬学科	2年	喜久山	芽依
	3年	植木	歩夢
	4年	石井	梨桜
	5年	中原	伶



●大川年間成績優秀賞表彰式

各キャンパスの学生たちが思い思いに活躍するクラブ・サークルをご紹介します。

大川キャンパス編

軽音楽部



多くの観客の前で演奏した2023年の大学祭



ライブハウスのステージを盛り上げる部員たち



好きな音楽のジャンルはさまざま。楽器未経験者も大歓迎です

コロナ禍を経て増えた出演の機会

こんにちは！福岡薬学部薬学科3年の福永です。現在、軽音楽部で代表を務めています。楽器は未経験でしたが、音楽を聴くのが好きという理由で入部しました。私が入学した2022年はコロナの影響で、前年度まで休止されていた活動がやっと再開し始めたという状況で、コロナ以前の活動形態を知る先輩もあまりおらず、不安を感じていました。

2022年秋頃から、徐々に出演の機会をいただけるようになり、大学祭や地域の行事に出演するようになりました。バンドを組んで1つの曲を仕上げる作業は思った以上に大変でしたが、それと同時にやりがいを感じました。また、本番で観客を盛り上げる先輩の姿に圧倒され、「私も軽音楽部をもっと盛り上げたい!」と思い、翌年以降は部の運営にも携わるようになりました。

ステージ上で輝く個性

軽音楽部にはいろいろな人がいます。邦ロックが好きな人、洋楽が好きな人、アニソンが好きな人もいれば、音楽には興味がないけれど楽器を触ることが好きな人もいます。そんな個性がバラバラな人たちをまとめるのは大変で、苦労も多いのですが、日々の練習や、出番を通して得られた

「集団で1つの目標に向かって努力する経験」は今後に役立つと思います。

今年2月にライブハウスで自主企画イベントを行いました。他大学のバンドをゲストに迎え、全部で9つのバンドが出演しました。大勢の聴衆の前に、大学祭や地域の行事とは異なるライブハウスのステージで演奏する部員たちの姿は、今までのどんなステージよりも輝いて見えましたし、挑戦するやる気とわずかなきっかけがあればここまで大きなことを成し遂げられるんだ、という自信にもつながりました。これは先輩方やバンド好きな大学職員の方の力なしではできなかったことです。

4月には1年生が12人入部し、現在軽音楽部では1~5年生まで50人を超える部員が日々音楽と、楽器と、向き合っています！楽器や音楽に興味がある人、何か新しいことを始めたい人、誰でも大歓迎です！体育館で待ってます！

<お知らせ>

10月12日・13日に大川キャンパスで大学祭が行われます！軽音楽部も両日演奏するのでぜひ観に来てください！

軽音楽部 代表
福岡薬学部薬学科3年 福永紗希

